

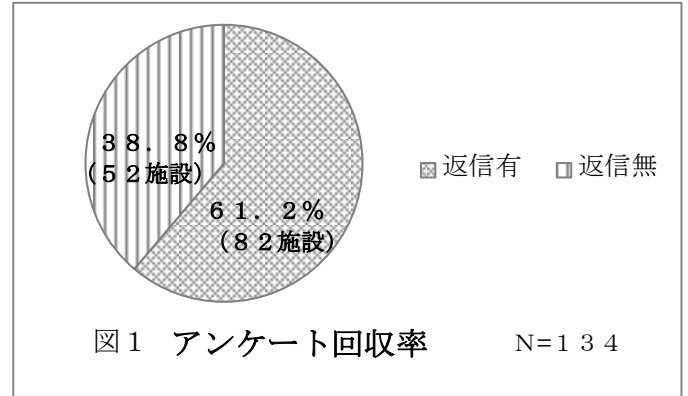
介護老人保健施設を対象としたアンケート調査結果報告

今年度の一般社団法人千葉県言語聴覚士会・介護保険委員会では、
 ①介護保険領域の言語聴覚士（以下、ST）の把握と現状を知ること、
 ②これらの情報をSTおよび関係スタッフが連携・情報共有に活用できるようにすること、
 を目的に県内にある介護老人保健施設を対象にアンケート調査を実施いたしましたので、
 ここに調査結果をご報告いたします。

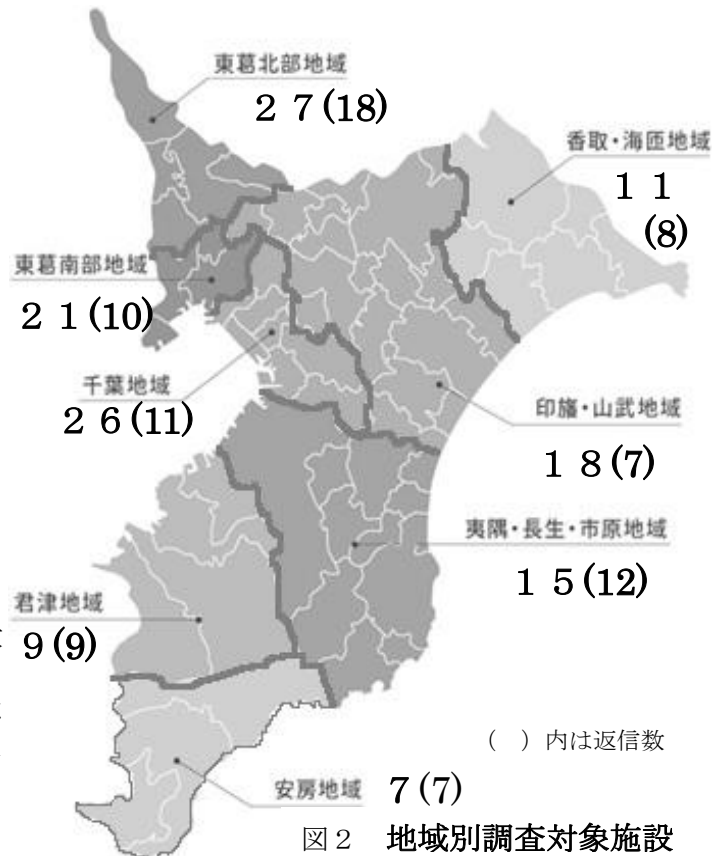
【調査方法】

調査対象は、介護保険委員会調べによる介護老人保健施設134施設とした。

調査項目は、(1)STの勤務の有無、(2)勤務形態、(3)職務内容、(4)対象領域、(5)STが勤務していない理由、(6)自由記述とした。調査は往復ハガキで実施した。調査期間は平成25年9月から約3週間であった。アンケート回収率は、134施設中82施設で61.2%であった(図1)。

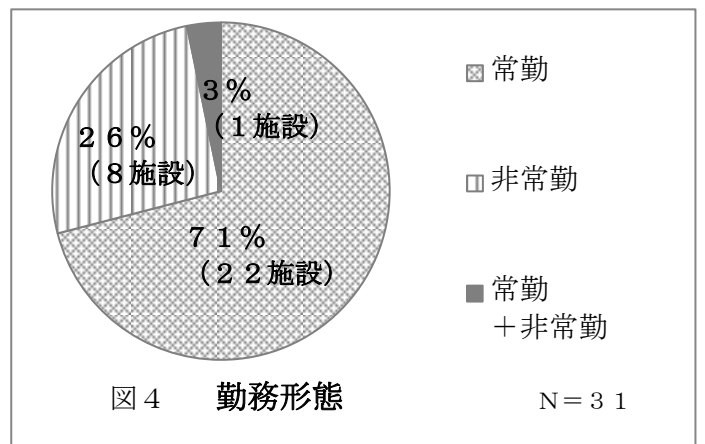
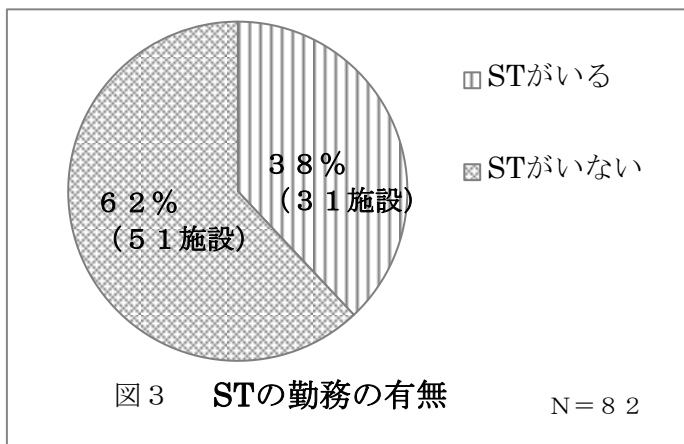


<地域別の調査対象施設数> ※()内は返信数
 東葛北部地域 27施設(18)、
 東葛南部地域 21施設(10)、
 千葉地域 26施設(11)、
 香取・海匝地域 11施設(8)、
 印旛・山武地域 18施設(7)、
 夷隅・長生・市原地域 15施設(12)、
 君津地域 9施設(9)、
 安房地域 7施設(7)
 「夷隅・長生・市原」「君津」「安房」の南部地域では回収率が高かった(図2)。



【調査結果】

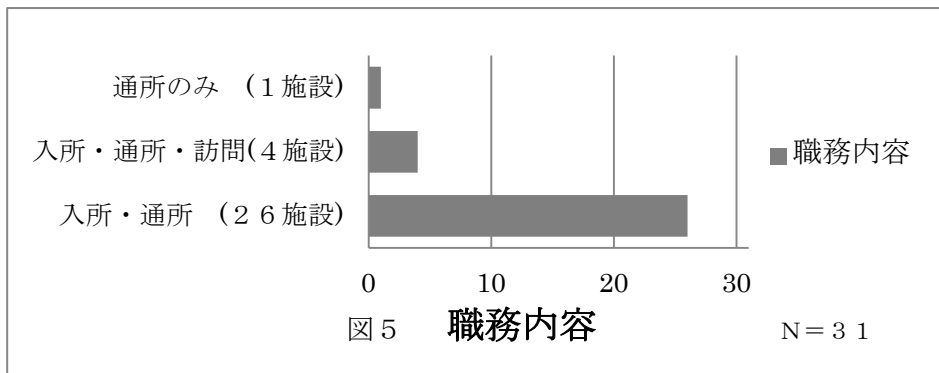
返信があった82施設のうち、
 (1)STの勤務の有無では、勤務していたのは31施設(38%)であった(図3)。
 (2)勤務形態は、「常勤」が最も多く22施設(71%)であった(図4)。
 「常勤」の人員は、ほとんどが1名(18施設)で、次に2名(3施設)であった。最も人員数が多かったのは5名(2施設)であった。
 「非常勤」もほとんどが1名(7施設)で、最も人員数が多かったのは2名(2施設)であった。また、「非常勤」の勤務日数は、施設によってばらつきがあり、5日/週は1施設、4日/週は2施設、3日/週は2施設、2日/週は1施設、1日/週は3施設、であった。
 また常勤と非常勤の組み合わせもあった。



(3)職務内容は、入所・通所の対応をしている施設が最も多かった(図5)。

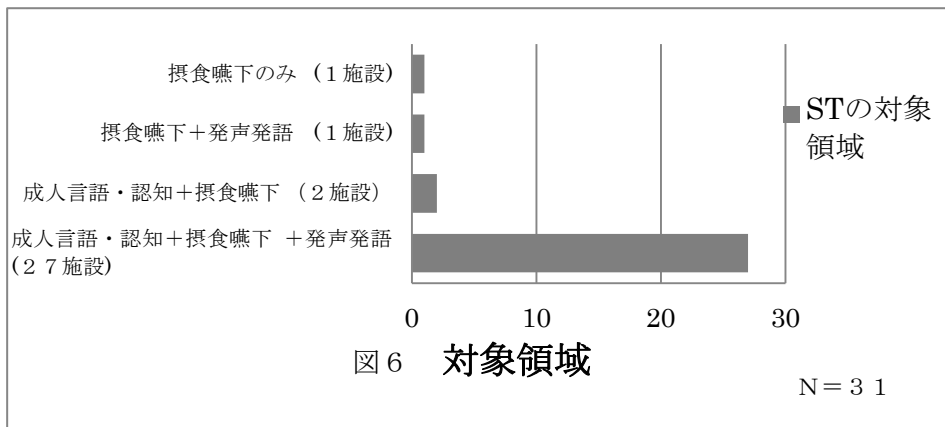
また、入所・通所・訪問の対応をしている施設は、常勤STが複数勤務していた。

訪問は、要望がある時に系列の病院から出向している施設があった。



(4)対象領域は、「成人言語・認知+摂食嚥下+発声発語」の3領域全てが最も多かった(図6)。

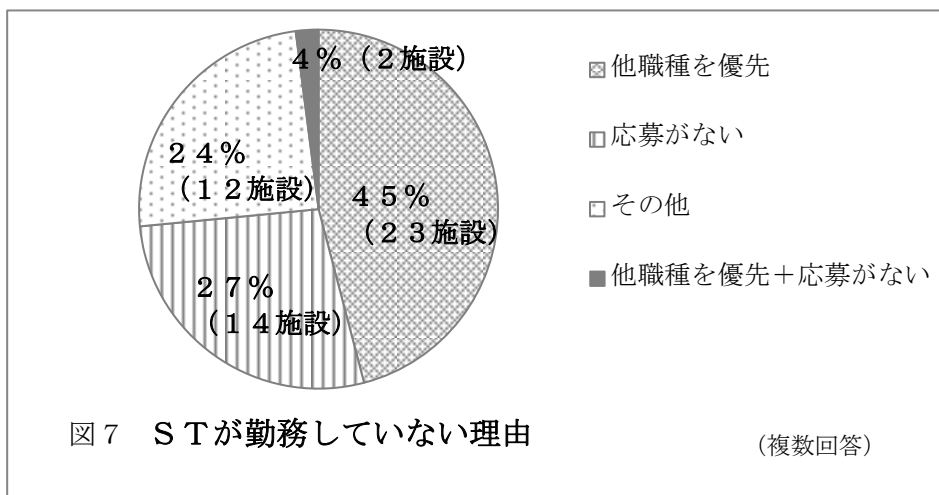
1～2領域の施設は、STが1日/週の非常勤勤務であった。



(5)STが勤務していないと答えた51施設の、その理由は「他職種の充足を優先」が最も多く、23施設(45%)であった。(図7)。

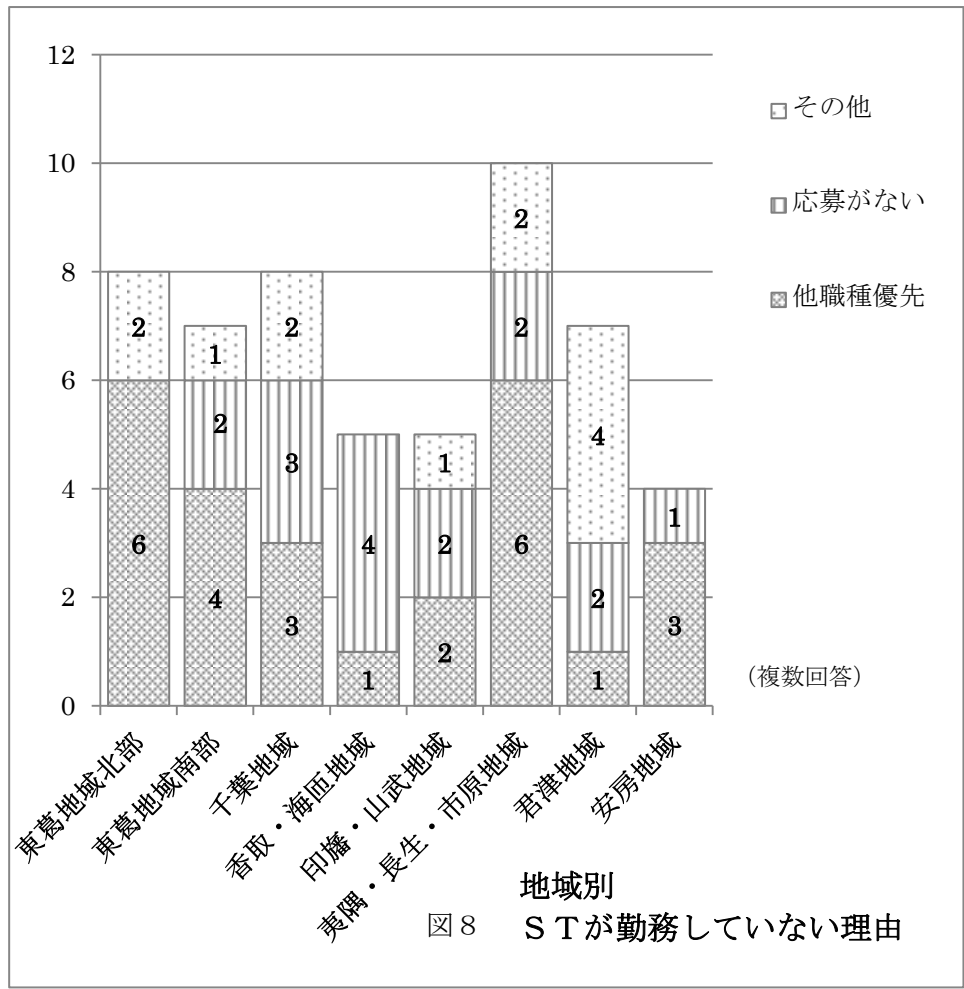
次に「応募がない」で、その中には紹介して欲しいといった要望があった。

また、「その他」は退職した、募集そのものをしていない、検討中、設備がない、といった理由であった。



また、S Tが勤務していない理由を地域別にみると、どの地域にも「他職種優先」施設があった（図8）。

東葛北部には「応募がない」施設はなく、香取・海匠では「応募がない」施設が多くを占めており、応募状況に地域差がみられた。



さらに、地域別にS Tが勤務している・いない施設数を見るため、返信のあった82施設について地域別に集計した（図9）。

その結果、ほとんどの地域でS Tが勤務していない施設数が上回っていた。

しかし東葛北部のみS Tが勤務している施設数が上回っていた。

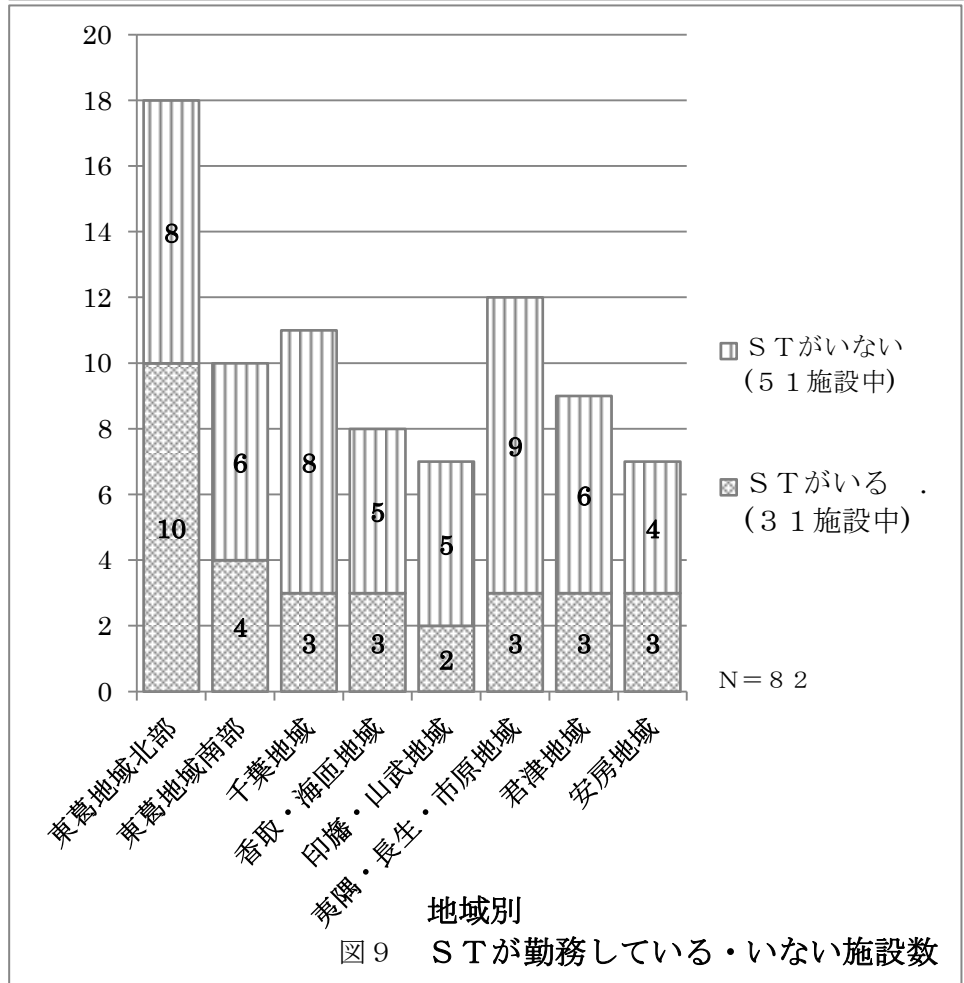
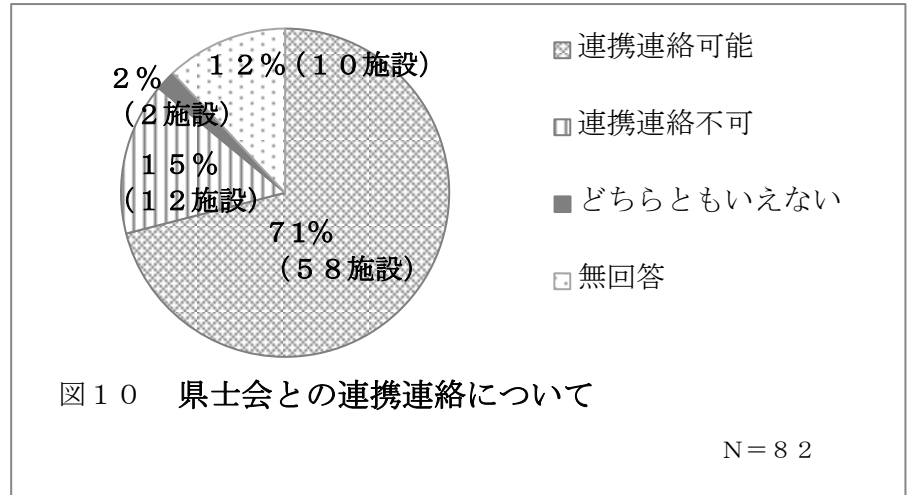


図9 STが勤務している・いない施設数

今回、「今後、県士会から勉強会のお知らせや連携・連絡をとることは可能ですか」と設問したところ、ST勤務の有無に関わらず58施設(71%)が「連携可能」であった(図10)。

「連携不可」の12施設は、STが不在のため、必要性がない、無回答がその理由であった。「どちらともいえない」は2施設、「無回答」は10施設であった。

多くの施設が連携・連絡に前向きであった。



(6)自由記述では、以下の意見があった。

施設 の 現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・100人に1人の療法士でPT、OT優先。ST応募がないということもある。 ・歩行立位・食事・トイレ等ADL訓練ニーズが高い。それに対するアプローチをどうSTは考えているか。 ・設立時からSTはいない。 ・STを受け入れる設備が全くない。 ・STの個別のリハビリ以外の業務等、リハビリチームでしっかりと定まっていない部分もあり、今のところ募集をしていない。 ・法人内の診療所に1名(STが)在籍しているが現在、老健担当にできるSTがないため。 ・予算がない。
ST の 応 募 に 関 し て	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣・老健リハに興味のある方の紹介をお願いします。 ・常勤・非常勤問わず1名職員を募集します。ご紹介をお願いします。 ・今後採用を検討したいと考えています。そちらから紹介していただければと思っています。 ・今後、検討していきたい。 ・まずはPT、OTを採用したい。 ・積極的な募集はしていない。 ・PT、OTはいる。ST募集はわからない。 ・以前PT、OT、ST募集にOTだけ集まった。 ・できればST来てほしい。誤嚥性肺炎も多く対応して欲しい。しかし加算上雇うことは困難。STメリット・加算などアピールして欲しい。
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の老健施設にどのくらいSTがいるのか知りたいと思っていました。結果を楽しみにしています。 ・勉強会はとても興味があるので、お知らせをうけることはありがたいと思います。 ・構音障害の勉強会が探してもない。構音障害に関する研修を希望する。

【千葉県の人口および高齢化率の現状】

今回の調査にあたり、千葉県の高齢者に関する実態把握（千葉県統計課：平成24年4月現在）をみたところ、千葉県の総人口は625万8078人、65歳以上の高齢者人口は135万5508人、高齢化率は21.7%で、全国で総人口6位、高齢者人口6位、高齢化比率41位であった。

千葉県の総人口に対し、千葉市、船橋市、松戸市、市川市、柏市で約47%を占め、同様に、これらの地域は、高齢者人口も多かった。

高齢化率が高い地域は御宿町の40.8%をはじめ、鋸南町、南房総市、勝浦市、大多喜町であった。高齢化率の低い地域は浦安市の12.8%をはじめ、印西市、市川市、成田市、白井市であった。

【まとめ】

今回の調査から、以下の3点が明らかになった。

1. 介護老人保健施設において、多くのSTは常勤1名で勤務し、入所・通所を担当、職域は成人言語・認知、摂食嚥下、発声発語のどの領域にも関わっていた。
2. STが勤務していない施設が多く、その理由の半数は他職種の充足が優先であった。また、募集しても応募がないこともわかった。
3. 地域によって、介護老人保健施設そのものの数やSTが勤務している施設の数に差がみられた。

介護老人保健施設において、STが勤務している施設数は少なく、勤務していても「一人職場で兼任」の施設が多かった。医療現場では複数名体制がほとんどであり、この領域に携わるST数の少なさが読み取れた。

STがいない施設で他職種が優先される理由としては、施設基準の問題（入所者数100名に対しPT、OTまたはSTのいずれか1名以上の療法士）や施設側の方針があった。さらに、STの必要性はあるものの、募集をしても応募がない実態もあった。

対象領域では、成人の3領域に関わっているSTがほとんどであったが、STがいない施設の自由記述からは、STがどんな役割を担えるのかがわかりにくいことが推測された。認知機能面低下に伴うコミュニケーション障害への評価や対応策の検討、誤嚥性肺炎を予防するためのアプローチなど、利用者のニーズに沿ったSTの役割についてもっと周知を図る必要性が考えられた。さらに、医師の指示のもとSTも関与できる加算として、短期集中リハビリテーション加算、認知症短期集中リハビリテーション加算、多職種共同の一環として経口移行加算、経口維持加算Ⅰ・Ⅱなどがあり、これらのニーズに応える為の、STの具体的な実践について提案していく必要性が考えられた。

また地域によって施設数やST数に差がみられ、東葛北部地域は施設数が多く、STも配置されていた。

【おわりに】

今回、未返信が約40%あったため、詳細な実態把握までにはつながりませんでした。千葉県における介護老人保健施設の傾向をおおよそ把握することができたと考えています。得られた情報をもとに、今後当会の介護保険委員会の活動につなげてまいります。ご協力頂いた皆様には心から感謝を申し上げます。

どうぞ当会ホームページに掲載された「言語聴覚士がいる介護老人保健施設一覧表」をご活用下さい。

(介護保険委員会)